

中でも、「言葉が不自由の体験」は以前よりもグレードアップされた内容でしたが、さすが民生委員の皆さん。伝えられないもどかしさ、言葉がわからないもどかしさを、上手に体験して頂けて公演する私たちも、良い手ごたえを感じる事が出来ました。

また、「発達障害とは」のところでは、発達障害に関することや合理的配慮とは等、中村さんより大変わかりやすく説明して頂き、皆さん熱心に聞いて下さっていました。

最後に、「元気で聞きやすいとても良い公演でした。」という声をかけていただけて、また一つ理解の輪を広げられた事と思いました。 K. Y

啓発キャラバン隊研修会に参加して

9月27日に「啓発キャラバン隊研修会」がオンラインとリアルで同時開催され、私はオンラインにて参加しました。午前は基調講演とキャラバン隊の実演、午後はシンポジウムとグループディスカッションと一日かけての研修会です。

午前中は講師に関哉直人弁護士を迎え「障害者権利条約とキャラバン隊活動」というテーマで行われました。障害者権利条約の8条の意識の向上と24条の教育を絡めて、いろいろな人に理解しにくい知的や発達障がいについて知ってもらう事の大切さ、そのための啓発活動の大事さを聞くことができました。実演は札幌市のキャラバン隊 Team i による、「書いてみよう」（伝わりやすい言葉と伝わりにくい言葉の体験）と「伝えてみよう」（言葉でのコミュニケーションが苦手な人の気持ちの体験）に二つの実演でした。

午後のプログラムのシンポジウムは進行役に関哉直人弁護士、登壇者は「Team ピリカピリカ」「とかち BEANS」「Team かたつむり」（3団体は北海道）「心のバリアフリーすすめ隊」（大田区）でした。

北海道のそれぞれのキャラバン隊が自己紹介と困りごとを発言し、大田区のキャラバン隊の登壇者として参加されていた佐々木会長から助言をいただきました。

この後のグループディスカッションでは8つのグループに分かれて行いました。やはりコロナの影響でなかなか公演ができないことや、新メンバーを探すことの難しさ、県内に一つもキャラバン隊が無く、立ち上げるにはどうすればいいかなどの相談にアドバイスできる人がいろいろな意見を話し合い、あっという間の一日でした。

最後に閉会の挨拶が啓発キャラバン隊推進委委員の矢野さんより Team i の疑似体験の中で、「書いてみようの実演で、普通を絵に書いてください。と言われたらみなさんどうしますか？何の絵を書きましたか？正解は何も書けません。自分で普通の価値観を決めていますか？」

確かにその通りと最後にとっても良い話が聞けて私も公演の中で話してみたくなりました。

K. K